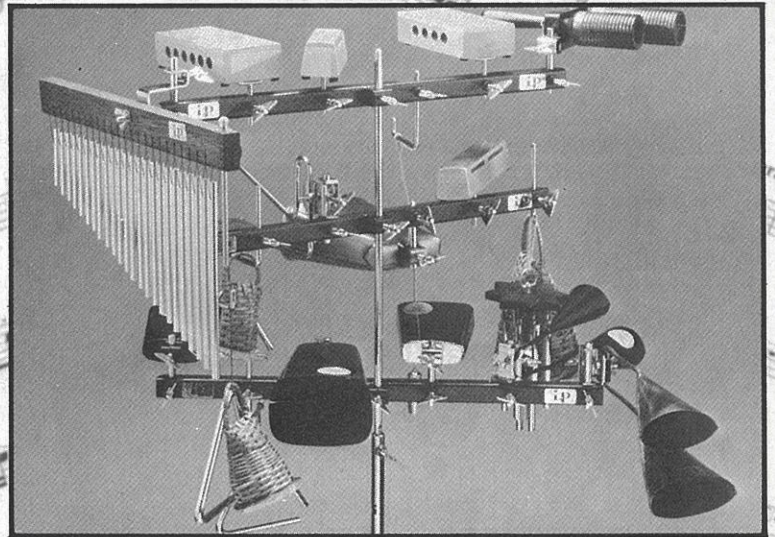
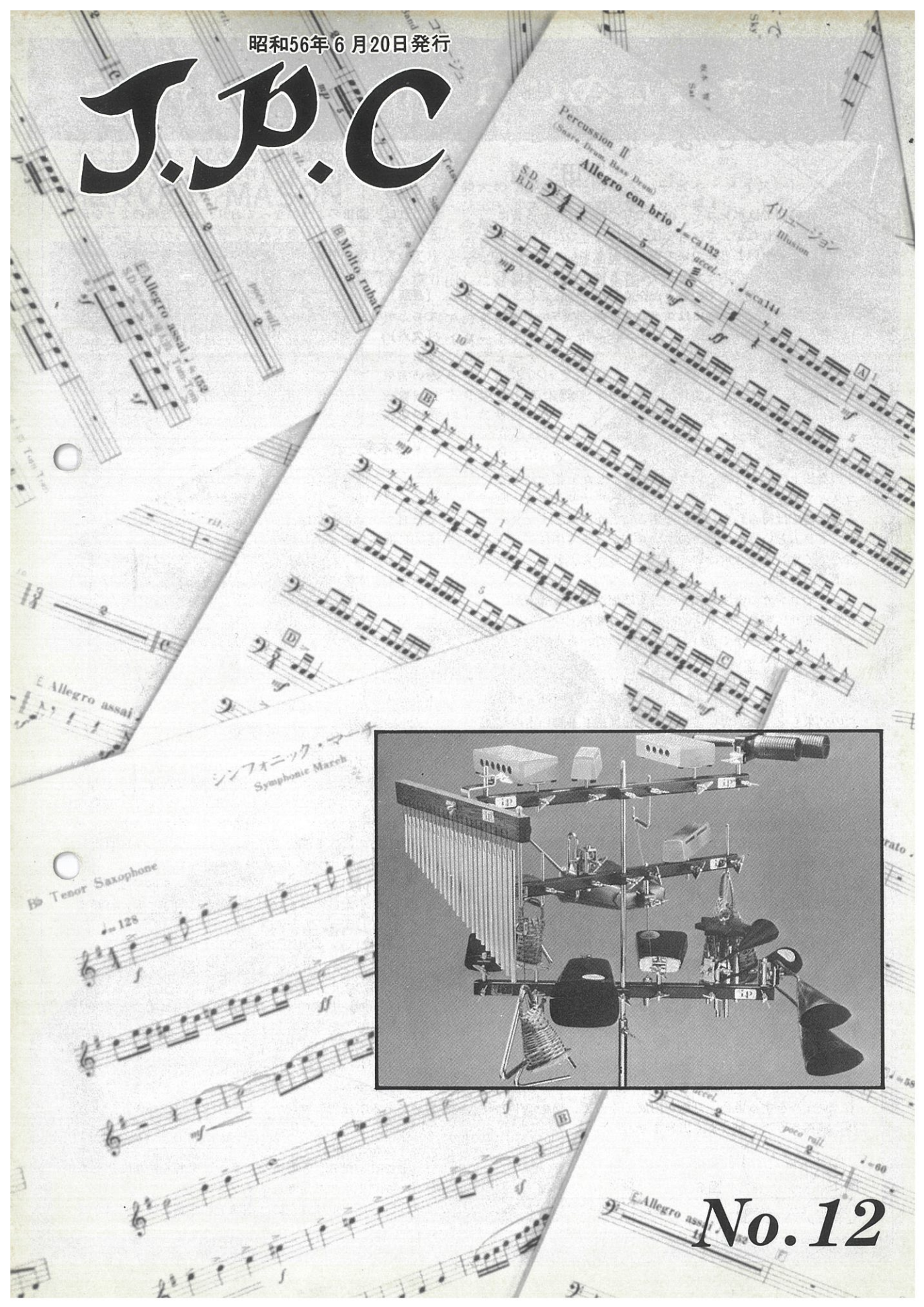


昭和56年6月20日発行

J.P.C



No. 12

打楽器アンサンブル へのいざない その2

塚田 靖

さて、前回ではボンゴを「籐」で打つ時に得られる音について話しましたが、ボンゴを使う時に、一つだけ注意しなくてはならないことについて書いておきましょう。それは下の空洞の部分かぶさがるようなことは、絶対にさけてください。ボンゴとしての響きが全くなくなってしまう。アンサンブルの時にはスタンドを使った方がよいでしょう。

III コンガ

この楽器も、ボンゴと同じように、ラテン楽器の中ではいつも使われる楽器です。

この楽器は、ボンゴほど細かい動きや、ハデなたちまわりはできにくい楽器です。しかし、オープン、クローズなどの奏法上の変化はいろいろつけられ、しかも指を使ってコッとして音を出すと、ブーン!! というウナリが作れ、他の打楽器では得られない響きを作ることが出来ます(ライオンドラムというの、このウナリ音がうまく作れ、その音がライオンのなき声に似ているところから、名前をつけたドラムです)。

ここでコンガの奏法を細かく書く紙面がありませんが、音楽之友社出版の「吹奏講座・No.3、打楽器/マーチング・バンド編」に細かく書いてありますので、参考にしてみてください。

これも手で打つのが主流ですが、マリмбаのマレットなどを使って演奏すると、音量も充分に出せ、アンサンブルでの効果も大きいと思います。しかし、あまり細い木のバチや、籐のバチで打っても、あまり良い効果は出ないようです。この他にも、単面鼓は、たくさんありますが、次に進めましょう。

IV ウッドブロック

これは、もうみなさんよく知っているのもので、それほど細かい説明も必要とは思いませんが、簡単に説明しておきましょう。

●種類と特徴

A、つづみ型

これは、図Iのようなもので、もっとも一般的に使われているものの一つです。丸い木をくりぬいて、左右のつづみの長さをかえることにより、音高のちがいを作るのが普通です。材質には、ケヤキ、ミツナラ、ブナ等、使われています。

【長所】 一対になっており、スタンドにつけても、手で持っても、二ヶの音を出すことが出来ます。

【欠点】 演奏上の問題ですが、小太鼓のスティックなどで、ロールをする場合、打面が円筒ですので、細かいロールを演奏することがうまく出来ません。

また、一本の木をくりぬいて作ってあるため、強度的に問題があり、ワレやすいという欠点もあります。また二ヶ以上の音が必要な時には、スタンドなどに組むのに、都合が悪く場合があります。

この他に、つりがね型のものもありますが、これもつづみ型のものとはほぼ同じような特徴をもっています(図II)。

B箱型

これは、図IIIのようにになっており、お弁当箱のような形をしています。しかも裏と表が、音高のちがうように作られていて(最近では、一面だけのものもある)どちらを使うか、その時々を選ぶようになっていきます。

【長所】 打面が平らで、演奏しやすく、安定した音を出すことが出来ます。

【欠点】 一コで一音しか出せないうえに、一つのスタンドに一ヶしかつけられないことでしょう。しかし、やわらかい布や、フトンの上に置いて演奏することも出来ます。

材質は、カエデや、カシが多く、音量、音色も、よいものが多いです。

V 木魚

もともとは音楽でなく、お寺で使われていたものですが、音色の特異性から広く世界中で使われるようになり、最近では日本国産のものは、ほんの少く、現在使われているものは80%以上が輸入品です。

これも、いろいろなサイズのものがあり、しかも同じサイズでも、木の材質や中のくりぬき方により、音高もマチマチです。材質は主にケヤキを使っていますが、中にはカエデや、ヒッコリー、また台湾製のものなどにはブナ材のものもあるようです。

ともかくいろいろなサイズがあるので(小はピンポンボール位から、大は小太鼓位のものまで)、選ぶことは自由に出来ます。

VI 使用するスティック類

1 ウッドブロック

木魚に比べ、かたいかわいた感じの音がします。そこで、使うバチも、比較的にかたいものの方が響きもよく、音量も出せます。したがって、fの時などは、小太鼓のスティックの後の方のにぎる部分で打つのもいいですし、シロホンのかたいゴム製のマレットを使うのもいいです。

しかし、ppのロールとか、細かいキザミをppで演奏する時などは、小太鼓のバチなどで小太鼓と同じように演奏するとよいでしょう。

2 木魚

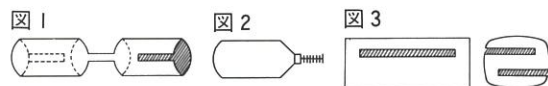
ウッドブロックに比べ、やわらかくて、ちょっとトボけた感じの音がするのが特徴でしょう。

音量も、ウッドブロックよりは大きく出せて、とても使い方のたくさんある楽器です。

スティックは、ウッドブロックよりはやわらかいものを使った方がよいでしょう(一般的には)、シロホンのやわらかめのゴムマレットか、毛糸まきのマレット、また皮をかぶせてある木魚用のマレットもあります(これは、少々音が暗くなります)。

もちろん、時には小太鼓のスティックのうしろを使って、ハードな音を作ることもありますが、楽器を割ってしまう恐れがありますので注意してください。

今回は、選択上の注意と、演奏上の注意について書きましよう。

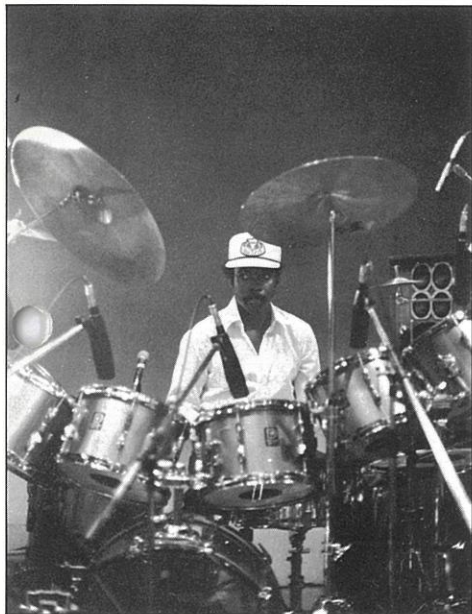


Premier Drum 2つのコンサート

HERVEY MASON

プレミア最大のプレイヤーの1人ハービー・メイソンが、ボブ・ジェームスと参加のツアーから早くも、1年が過ぎ、今年は今話題のフュージョンバンド“カシオペア”のプロデューサーそしてゲストプレイヤーとして、初日の東京厚生年金のステージを振り出しに最終札幌までの全国ツアーと素晴らしいドラミングを展開し、さらにカシオペアの名声をひときは光り輝かせた。ライターでありコンポーザー、そして、プロデューサー、また、アレンジャー、あるいは又、シンガーであり数多くの才能をフルに発揮した今回のハービーのステージであった。

彼の「アリスタ」レコードのソロアルバムでも聞けるように、なぜかハー



ビーのドラミングに魅了されてしまうハービーのパワーがある。

リハーサルに於いての綿密な練習にはビックリ、ますます快調なハービーは、あのスティーブガットのようにアメリカのメインストリームの位置を確保したように思える！

(藤原)

Drums リック・バックラー

シンバル：サウンドは全体的にヘビーで、厚みのある低音を重視した音(バイステ 2002)

HiHat：15"・2002・サウンドエッジ・ヘビー

A：11"・2002・スブラッシュ・ミディアム

B：16"・2002・クラッシュ・ミディアム

C：18"・2002・クラッシュライド・ミディアム

D：22"・2002・エクストラライド・ヘビー

E：18"・2002・チャイナタイプ・ミディアム

F：14"・2002・クラッシュ・ヘビー

G：20"・2002・クラッシュライド・ヘビー

スタンド類：プレミア

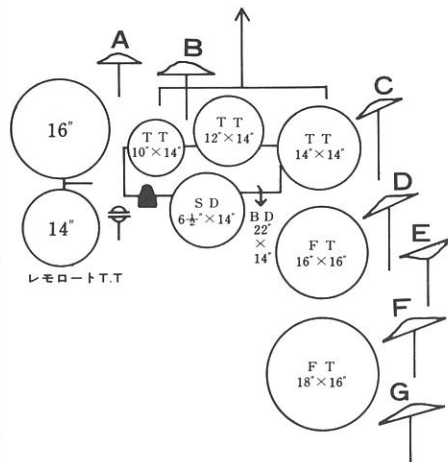
フットペダル：ラディックススピードキング(ビーター木製)

ドラムイス：タマDT120

カウベル：ゴンボップス

スティック：プレミア

プレミアスペシャルタム 特注、深胴




THE JAM

課題曲の打楽器パートについて 一寸したアドバイス

—1980年度・吹奏楽コンクール課題曲から—

東京芸術大学助教授 有賀誠門
東京音楽大学講師

イリュージョン

④の1小節前のネスアドラムのリズムは、
のようにならない様、粒を
そろえてきちんと演奏して下さい。又このS・DがTempo
を決める役割もしているので指揮者よりもスネアに
主導権を持たせた方がいいのではないですか。

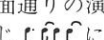
⑤の小太鼓は木管楽器を助ける役目でありあまり大
きくならない事、そしてシロホンのメロディーを消さ
ないで下さい。



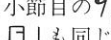
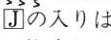
シロホンも木管も次の様にならないこと。



1小節づつのブレーズなので区切を付けて演奏すれば、
小節の頭のアクセントが生きて来ます。

⑥のTri は譜面通りの演奏ではなく、フルート、ク
ラリネットと同じ にして下さい。

⑦の3小節目のリズムは、はっきりと出して下さい。

5小節目の  は3つの音をはっきり、8小節目の
 も同じです。

⑧の入りは指揮者と全員の息を合わせ事、Pなので
特に注意して下さい。2小節目の、ティンパニーは、
次のG音を打つ時にC音をミュートし、G音は2拍目
でミュートして下さい。後も同じです。

⑨6小節目の打楽器ソロは急ぎやすいので気を付け
て下さい。ティンパニーは一音づつミュートしていく
努力をして下さい。消す動作によってもリズムが生き
て来ます。

最後の音は、〔注I※〕ではなく〔注II※〕で演奏し、
次の八分休符の方を※の気持ちで演奏して下さい。

※注I・IIの記号は、有賀先生のお話の中で、しばしば用
いられました。そこで目で見て感じる事の出来る表現方法の
一つとして、今回より使用する事に致しました。

コラージュ

グロッケンのソロは片手でやって見たらどうでしょ
うか。それも左手で演奏すると慎重になるので、両手
でガタガタになるよりもいい結果が得られるのでは？
……。スネアドラムも五連符をあまり意識し過ぎない
様にして下さい。


マラカスのロールは曲のスピードに合わせて雰囲気
を楽しみながら演奏して下さい。






⑩の1小節前のティンパニーはPesanteと書いてあ
ってもタカターンと演奏する場合がありますが、この
場合はダダダターンと演奏した方が良いでしょう。




バスドラムの音も※の音で、だんだんに※で消える
様に演奏して下さい。

⑪の  の一つが※の音になる様に演奏して下さい。

⑫の1小節目の四分休符は、Timp、B・D、Susp、Cym、
共に音を消して下さい。2小節目のトムトムは2つ目

に注意して、前の音にくっつかない事。ティンパニー
は  のミュートを忘れない様にして下さい。

⑬2小節目のシロホンは の方が良いと思います。
感じ方も ではなく の気持ちで演奏して下さい。
4・6・8小節も同じです。10小節目のバスドラムは
遅れない事。シロホンは の気持ちで、にな
らない様にして下さい。

⑭のシロホンは、の※は終わりの音
であり又始まりの音でもあるので矢印の様に演奏して
下さい。かなり気持ちが変わるはずですが、5小節目か
らのティンパニーは にならない様に、正確でリズム
ミックに演奏して下さい。特に の部分がつまらない
こと。8小節目の16分音符は「グラグラ」にならない様、
トランペットの発音の様に「タカタカ」と発音して下
さい。11小節目のティンパニーの2拍目は音が残らな
い様に消して下さい。

⑮2小節目からのティンパニーのアフタクトは、充
分注意して下さい。2小節目の3拍目のトムトムは、
RRの手順で、はっきり出して下さい。とても重要な
音です。5小節目の4拍目も同じです。

最後のドラムは、振動の減衰を指でこまやかに調節
して、充分余韻を楽しんで下さい。

シンフォニックマーチ

- 楽しく歩いて下さい。ウラを感じる歩き方で生き生
きと歩いて下さい。膝の上げ下げを十分意識して下さい。
- それが出来たら、この旋律を口で歌って下さい。と
にかく、のれるようになるまで。

それから楽器に移して下さい。

1・2小節の3・4拍はトランペットとのかけ合に
なっているので、正確にはっきりとリズムを立てて下
さい。3小節以降のバスドラムは弦楽器のピッチカー
ートを弾く様、意識を持って演奏して下さい。小太鼓
はそれに乗って軽快に演奏しましょう。

⑯の2小節前アフタクトの次の音には気を付けまし
ょう。“なんとなく”にならないで下さい。9小節目の
頭の四分音符も同じです。

⑰の3小節前のシルバルはいい響でSoloしましょう。
この曲全体で言える事は、演奏者、指揮者、聴衆者
すべてをのせる“ノリ”でハッピーに演奏して下さい。
フレーズを、はっきり把握して下さい。

青空の下で

シンフォニックマーチ同様、軽快に演奏して下さい。
特にバスドラムはスピードのある音で歯切よく……。

⑱の1小節4拍目からのスネアドラムは、急がない
様に、又八分音符は、もたつかないよう元気よく、演
奏して下さい。

—本番以外は、アドリブで遊べるくらいの余裕が欲
しいですね!!

コンクール課題曲 使用打楽器アドバイス

〈イリュージョン〉

鶴沢正晴 作曲

Player I……Timpani

ティンパニは、曲のテンポ（早さ）を考えると、チューニングが難かしいと思われるので、4点32"・29"・26"・23"（30"・28"・25"・22½"）を使用するのが望ましいと思います。

マレットは、**A**の部分でMedium位のもので良いでしょう。そして**B**の部分からはハグレの良い音色の出るものが良いでしょう（例、Goodman⁵ Sato(S.G)V-HARD）。ただ、あまり打ちすぎない事と、重い音にならない事に注意して演奏して下さい。

Player II……Xylophone

マレットは小さめのもので（例、Mike Balter 10A Vic Firth M-6）位のもので、ハグレ良く、軽く演奏すれば良いと思います。

Player III……Cymb. Triangle

Cymbは16"~18"の薄すめ（Med-Thin）が良いと思います。中学生の方は14"のMed位でも良いでしょう。**C**の前の後打ちが出来る大きさを基準にすると良いと思います。

尚、Triangleとかけもちの場合は、**D**の部分はSS Cymbでも良いと思います。Triangleは6"~8"でピーターは余り細すぎないように太目のもので音を小さく出すようにすれば、きれいな音色が出せるでしょう。

Player IV……Snare Drum

ハグレを良くする為にヒビキ線は張りめにした方が良いでしょう。その際チューニングに注意して下さい。またピッコロスネアを所有していれば、それを使用すると良いと思います。スティックはあまり重くないものが良いでしょう。（例、Vic Firth⁹、POWERTIP C）。

ただ**E**からはあまり音質が軽くなりすぎない様に注意して下さい。全体的にバリッとした音色が出るようにすれば良いと思います。

Player V……Bass Drum

アクセントがはっきり出せるもので、少し張りめにするとう良いでしょう。38"~40"のものを使用する場合はミュートきみで打つとう良いでしょう。マレットはあまりやわらかすぎないものを使用すると良いと思います。（例、Satō Medium）

東北地方の民謡によるカラーージュ 榎田朕之扶 作曲

Player I……Timpani

4点でサイズは32"・29"・26"・23"（30"・28"・25"・22½"）を使用すると良いでしょう。マレットは最初の4小節目からと**F**~**G**までは、あまり硬すぎないものの方がいいでしょう（例、Saul Goodman² Or³、Vic Firth F-1）。

Hの前と、**I**の7小節前からは、メリハリをつける様なマレットがいいと思います（例、Soul-goodman⁵ Or Vic-Firth T-4）。

Player II……Glockenspiel・Xylophone

グロッケンマレットはシロホンと併用するならば、マイクバルターの10A（プラスチック）が良いと思います。その他にグロッケン用として、アルミニウム製のマイクバルター、9Aが良いと思います。シロホン用としてはピックファースM-6か、マイクバルターのローズウッド製の7、8番を使用すると打撃音が少なく良いでしょう。

Player III……Snare Drum 縮太鼓

縮太鼓は、5万円前後で発売されておりますが、スネアドラムを2台所有している場合1台をそれに近い音色にすることができます。それは、鼓面の中心に5cm四方に切ったガムテープ（布製のものがよい）を2重もしくは3重に

張り、縮太鼓用の軽い撥（¥3,000位）で打つとよいと思います。テナードラムでも代用できますが厚さが深すぎるので、できれば木胴のスネアドラムが良いでしょう。Tom Tomで代用の場合も縮太鼓用の撥を使用すると良いでしょう。その際、チューニングには充分注意して下さい。

Player IV……Cymb. スズ・ドラ

シンバルは18"のMed-ThinかThinの少し薄めのもので良いと思います。マレットは木綿糸巻きの少し柔らかいものの方が良いでしょう（例、Satō Med-Soft Or Soft）鈴は神楽用が最適だと思います。スレイベルで演奏される場合は音色がかなり派手すぎるので、数個の鈴にテープ等でミュートすれば良いでしょう。J.P.C.では神楽鈴に近い音色のバンドベルを推薦します。（1組¥3,000）ドラは26"~30"のKMKのものの方が良いと思います。余り打ち過ぎない様にバランスを考えて演奏して下さい。

Player V……マラカス・キハダ・スズ

マラカスは粒の小さい、ハグレのいいものの方が良いでしょう。そして音程は、さほど高くはないもので、サイズは大きめのもので良いと思います。

Player VI……バスドラム・槽太鼓

バスドラムのサイズは、大きめの方が良いでしょう（例 Ludwig 806P、808P）。また槽太鼓をバスドラムで代用する場合、サイズは小さめが良いでしょう。そして和太鼓用のパチ（¥3,000位）を使えば比較的近い音色が得られると思います。

※和楽器を代用する場合全てに言えますが、色々研究工夫して音作りを楽しんで下さい。

〈シンフォニックマーチ〉

斎藤正和 原曲

Player I……Timpani・Glockenspiel

ティンパニは4点32"・29"・26"・23"（30"・28"・25"・22½"）を使用すると良いと思います。マレットは、硬すぎない様なものの方が良いと思います（例、Saul Goodman²、Vic Firth T-1）、グロッケンのマレットは、打撃音の少ない、アルミ製のものか、プラスチック製のものが良いと思います（Mike Balter 9A・10A、Musser M-5）。

Player II……Snare Drum

マーチなので2台使用してみるとより一層メリハリが付いて楽しく演奏できると思います。この場合、チューニングには注意して下さい。

Player III……Cymbal

シンバルは、軽い音色のもので良いと思います。サイズは18"位でMed-Thin位の薄めのもので良いと思います。16"のMedかMed-Thin位のもので良いと思います。サラッとした感じが良いでしょう。

〈行進曲「青空の下で」〉

坂本智 原曲

Player I……Timpani

ティンパニのサイズは29"・26"・23"（28"・25"・22½"）良いと思います。マレットは硬すぎないもので、スタッカートのできるものが良いと思います（例、Soul Goodman²・7 Vic Firth T-3）。

Player II……Snare Drum

スネアドラムは、ハグレの良い音にして下さい。尚、強弱を充分理解して演奏して下さい。

Player III……Bass Drum

バスドラムのサイズは32"~40"位のもので良いと思います。この時、残響を少なく歯切れ良く演奏して下さい。ピーターは普通の硬さのもので良いと思います（例、Satō Medium）。

Player IV……Glockenspiel

マレットを色々研究して下さい。真鍮製、アルミ製、プラスチック製、ゴム製などがあります。バランスを考えて、とび出しすぎないように注意して下さい。

編集 J.P.C.

協力 都響

白石元一郎

印度古典音楽紀行

黒坂 昇

街のいたる所で音楽が？

インドの地理的な事については今さら言うまでの事もないと思うが、成田より直行便でカルカッタまで、途中ホンコン、バンコックを経由して約11時間である。日本との時差は3時間30分。昼に成田を発つと日本時間で夜の11時、インドでは7時30分。一般家庭ではまだ夕食前である。カルカッタのダムダム空港は国際空港にもかかわらずおおよそ日本のローカル線のそれと同じ様である。

私自身、インドでは音楽が生活に密着しており街のいたるところでひっきりなしに音が聞こえてくると言うことを耳にしていたのでそれなりの期待を持ってインドの大地に足を踏み入れたのだが、とんでもない。音楽どころかそのニオイすらも感じられなかった。

とにかく周囲の人々が皆、こじきあるいはスリに見えたり、蚊は沢山いるし、物に触ると病気が移ってしまいそうな……等々。

私にとっては悪い印象しか残っていない。

さて、待望のインドに来て“ガンバルゾ！”と生き揚々張り切る訳だがどっこい、とんでもない話でベースが乱れっぱなし。とにかく冬という時期にもかかわらず日中は陽ざしが強く外には出られず体はだるく昼寝をするあり様。その上“インド時間”何をやっても日本の様には思うように事が運ばない。そんな調子だったので本格的に練習ベースをつかむ事が出来たのはインド入りして2週間位してからである。

北新・南古のインド音楽

これからタブラについて話す訳だが、その前にインド音楽について少し触れておこう。

インド音楽は南インド音楽と北インド音楽に分けられる。14世紀前後のイスラム教徒の侵入以降に分かれたもので南インド音楽が古いままの形を受け継いで来ているのに対し北インド音楽は新しい音楽へと発展したため、形式や楽器等の点で違いが見られる。

南インド音楽が終始一定テンポで演奏されるのに対し、北インド音楽では拍子是不変だがテンポはどんどん速くなる。楽器は南インドではヴィーナという弦楽器そしてマリダンガムという打楽器が代表的なもので、北インド音楽ではシタール、サロッド、サーランギ等の弦楽器、シャナイ、バンスリー等の管楽器そしてタブラ、パクワジ等の打楽器が代表的なものであるがこのほかまだまだ沢山の種類の楽器がある。演奏時の楽器編成はおもにメロディー楽器と打楽器そして終始ドローンを鳴らし続けるタンプラーという弦楽器の3人で演奏するのが一般的である。

代表的なタブラ・バヤについて

では、タブラについての説明に入ります。タブラは(写真下)2個1対の楽器(南インドの両面太鼓マリダンガムが北インドに来て2つに分けられ改良された楽器)で小さい方をタブラと言い、正確にはタブラ・バヤと言うが通常2個合わせてタブラと呼ばれている。タブラは西洋に渡り小太鼓になったと言われ、かなり細かな奏法を必要とする。バヤの方は西洋に渡りティンパニーになったと言われ演奏上かなりのグリッサンドを必要とされ、その音色には誰もが魅せられてしまうほどである。

構造とチューニング……タブラの本体はムクの木で出来ており、上部をくりぬいてあるだけだがその深さは様々で、おわん位かそれよりも少し深い程度である。空気口はなく日本太鼓同様密閉形で、木の材質については硬軟様々である。

表面の皮は羊の皮等が多く使われ三重に張られ上下の皮は大きく円形にくりぬかれている。中の皮の中心部には黒い練り物(黒鉛、マンガン、ご飯つぶ、木の汁等で何重にも重ねられている)が貼り付けてあり、これは演奏上色々な音を作り出す為に効果を發揮し、物理的にも証明されている。表面の皮はチョールと呼ばれる皮ひもで張られ、グリと呼ばれる木片がはさまれ、グリを上下させる事により皮の張力を変化させる。タブラには器楽用、声楽用等がありそれぞれサイズが違う。又、奏者の手の大きさによっても多少違うこともある。



チューニングについては金属製のハンマーが使われチョールとグリによって引張られた表皮はこのハンマーで縁を打つ事で微調整される。通常は基音「サ」の音、つまり西洋音楽でいうC#にチューニングされる。(インドでは西洋音階のドレミファソラシドをサレガマパダニサで表現している。声楽についてはそれ以外である。

バヤの本体は素焼きの物が一般的であり、中には木製の物もあるが最近では金属製の物が一般化されつつある。空気口はなくタブラ同様密閉

形である。

表皮についてはやはり三重に張られ上下皮は大きく円形にくりぬかれているが黒い練り物はタブラと異なり中心よりも少しズレて貼りつけられている。やはりこれも物理的に証明されており後記奏法の所で述べるが色々な音程、音色を出すのに役立つ。皮ヒモについてはタブラと同様だがグリ(木片)については通常使われる事は少なく、梅雨時期等湿気が多く皮がたるんでしまった時に1つ2つ使われる程度である。楽器の大きさについてはタブラほどの違いはなくほぼ一定であるが多少形の違いがある。

チューニングについてはタブラほど神経質ではなく、タブラと1オクターブの関係と言われているがその限りではなく奏者によってバラバラの様である。

奏法、音の出し方について……

楽器を前にし、あぐらをかいて座わり右手にタブラ、左手にバヤがくる様にセットする。右手、タブラは指で叩く部分は皮面全部であるが大きく3ヶ所に分けられる。一番外側のカーニーと呼ばれる部分、二番目のスールと呼ばれる部分、そして真中の黒い練り物が貼り付けられているガブと時色れる部分である。演奏はおもに3本の指(人差し指、中指、薬指)が使われ、ガラナ(流派によって多少違うが、出す音により使う指と位置が決まられており、それらはすべて言葉(ボール)で表現される。インドでは五線譜が使用されないため邦楽楽器を習う時の口三味線のそれと同じである。(タンタカカタンタカタンタン……等々)。タブラが出す音はアルファベット「T」で発音される音、五十音で言うタ行(タチツテ)でありインドの言葉では多少発音が異なる。専門的になるが「ター」と言う音は人差し指でカーニーの部分で打つ音であり、「ティン」と言う音は人差し指でスールの部分、そして「テ」と言う音は中指と薬指でガブの部分で打つ音である(人差し指で打つ事もあり、「レ」という発音になる時もある)音の表現はこの他まだまだ沢山ある。

左手、バヤの方もタブラ同様指で叩くが、叩く位置はガラナにより多少違い黒い練り物が付いている部分が前方になるか横になる様セットするが、手の位置についてはほぼ同じであり指を真っすぐ伸ばして指先が皮の縁に当たる様に皮の上に置き手首は常に着いたままの状態演奏される。音につい



ては全部の指で皮の表面(縁)を叩いた瞬間に余韻を残さずにミュートした音でアルファベットの「K」、カ行の発音で表現される音(カキクケコ)等ですべて同じ音ではあるが前後のボールの関係で表現が違って来る。もう1つの奏法は人差し指と中指(これは指先きを立てる)とでガブと縁の間を叩くが非常に難かしく、手首は着けたままで鎌首を持ち上げた様な格好で指先きで叩き余韻を残す音でアルファベットの「G」ガ行の発音で表現される音(ガギグゲゴ)等で、これらはみな音程が異なる。もちろん前後のボールの関係で表現が違ってくと同時に音程も変わり、この時に初めてグリッサンド奏法が行なわれ、打った瞬間に余韻を消さない様に手首で押し込み、皮の張力を変える事によって音程を変える(ペダルティンパニーのそれと同じ張力変化)および黒い練り物の部分を手首をスライドさせる事により音程を急激に変化させる。これが何んとも不思議なのではあるが実に物理学的に立証済みなのである。例えば「ゲェ」の音は打った瞬間に手首を素早くスライドさせ「ゲ→エ」等は打った後余韻を消さない様に手首をゆっくりとスライドさせながら押し込む。特に「ゼゲ→」の様に2度続く時などは1打目は普通に叩いて余韻を残したままで良いのだが2打目は打つと同時にスライド、押し込みの手法を行なう事によりグリッサンドの間の音を出すことなく上がり切った音を出す事が出来る。本当に難かしい奏法である。

さて、楽器の語りについて

以上が音の出し方であるが、これだけを知っていただけでは実際の演奏にはまだまだ不十分である。なにしろ言葉楽器を使って表現するのであるから今までの音をそのまま出しても表現しきれないはずがない。そこでどの様にするかと言うと、左右の音の組み合わせによって音色、音程を作り出すのである。

例えば「ダー」の音は右手の「ター」の音と左手の「ゲ」の音を同時に出す。「テケケテ」は「テテケテ」と奏すが言葉のゴロの関係で2打目の「テ」の音は「レ」になる。右手で「テテ」と打ち左手で「ケ」の音を出し再び右手で「テ」の音を出す事になる。

この様な調子が音が組み合わせられ1つの大きなボールを奏する訳であるがこれ又、すべて口伝であるがゆえ、のみ込むまでかなりの時間を要する。そこで忘れない様にする為ノートにまとめようとするのだがどここい、なかなか思う様に行かずキチンと覚ええしまった方が楽なくらいである。

タブラを習ってみて分かった事なのだが、西洋音楽の知識が邪魔になるのである。つまり西洋音楽がタラの線で分り振られるのに対し、インド音楽では周期であるからして、それを無理にタラの線で解釈しようとするとは非常に困難になる。いっその事タテの概念は捨てた方が良いでしょう。

こらでレッスンを休んで

この辺でタブラのレッスンもひと休みする事にして少し旅に出てみましょう。

インドはあらゆる所に仏跡が見られその規模の大きさにはよくぞ人間がこれ程までの物を造り上げたものだと関心させられるほどである。

「聖」なる地ベナレスは、全インドから色々な人種の人々が「聖」を求めて集まり聖なるガンジス川では沐浴が見られるが、一方では洗濯をする人や口をゆすぐ人等々、又、川岸では死体も焼かれ灰はそのまま川に流される。我々にはおおよそ考

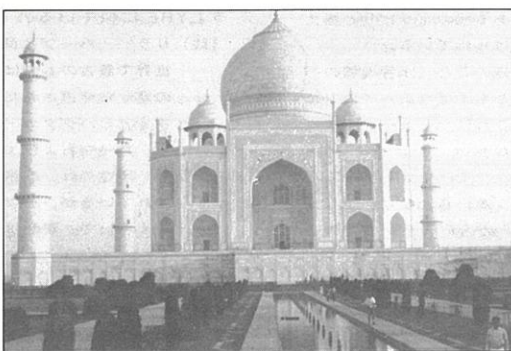
えられない事だが彼等にとってはこれ皆、すべて「聖」なのである。インド人に聞くと死ぬ時はベナレスで……だそうである。

首都であるデリーは、ニューデリーとオールドデリーとに分かれ古い物と新しい物が同居した様な街でかなり観光化されている。

ジャイプールではマハラジャ(王様)の気分が満喫出来る。象の背中に乗り山道を山頂の城まで登るのだが途中楽器(鼓弓)を演奏しながら付いて来てくれ、何んとも言えぬ優雅さを味わう事が出来る。

タージマハールはあまりにも有名すぎる。アジャンタ、エローラはあの広大なデカン高原の山肌に造られた数々の洞窟、あるいは山を切り開いて造られた仏跡地である。

ボンベイはかなり近代化された街でさすがインドの西の玄関口と言われるだけの事はある。この他、まだまだ見て廻りたい所は沢山あるが旅行ボケしないうちに音楽の話に戻しましょう。



即興演奏が基本のインド音楽

タブラについては一応の事は理解できたと思いますがさて、実際の演奏の方法についてはどうかと言う事になるが、インド音楽は即興演奏が基本とされているため、自分の音楽を自由に表現出来るが、そんな中でも厳格な規制に基づいての即興演奏である。

インド音楽には、「ラーガ」と「ターラ」がありラーガは「旋法」であり数えきれない程の種類がありそれぞれ名称がついている。ターラはリズム周期であり何種類かあり名称がつけられている。従って演奏の際には

何のラーガをどのターラで演奏するかを明確にする。

基本となるターラはティンタール(16拍子)で4×4小節を1周期と考えて頂ければ良いと思う。

例

- (強拍)



通常良く使われるターラはティンタールの他、ジャープター(10拍子)、エークタール(12拍子)、ルパーク(7拍子)、ダードゥラ(6拍子)、カハルバー(8拍子)、等があり他にも11拍子とか11拍子半とか14拍子とかまだまだ沢山ある。

演奏中はおもに一定リズム(テカーと言う)を打ち続け、それを聴きながらメロディー楽器が即興演奏を行ない、即興が終わったところで(決められた規則があるので分かる)今度はタブラが即興演奏をする。この様な事がくり返されながら熟練が続きエンディングも規則どおり行なわれ終るのだが演奏時間は長くも短くもでき自由である。インド音楽には、サム(1拍目)で始まりサムで終ると言う規則があり、周期があるからしてサムで終わったと同時に次の周期が始まってしまうため、インド音楽はどこから聴き始めてもいいし、どこで聴き止めても良いのである。

以上、タブラを中心に話してみました。

まだまだ足りない部分があると思いますが皆さんも今後インド音楽に接する機会があると思いますのでその時にでも勉強されてみてはいかがでしょうか。

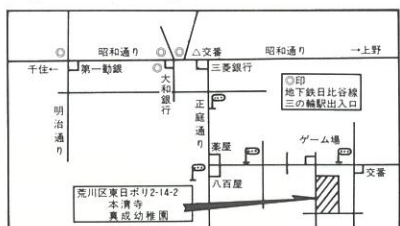
印度古典音楽の集い!!

★毎月第3土曜日

★場所：本清寺(地図参照)

★入場無料

(当日お茶の用意がありますので、コーヒーカップを自参して下さい。)



黒坂昇タブラ教室

★毎週木曜日(月3回)PM6:30より

★場所：JPCレッスン室

★レッスン料：¥7,500+500(設備費)

★入会金：¥4,000(J.P.C会員¥3,000)

楽器は毎回持参ですが、レンタル(月々半¥1,000)もあります。

楽器の知識 その1

「楽器を求めての巡歴」より

●マリンバ

マリンバは、シロホンを大型にしたような楽器であるが、機能的にはシロホンと殆ど変わらないものである。ただし、音質的にはシロホンより軟らかい音色をもち、さらに、ソプラノからバスに至るまでの各種のマリンバによる合奏が可能であるなどという特徴をもつ。

(註) マリンバは南米で生まれた楽器であるとも伝えられ、そのある種のものには響鳴パイプの底にブラッター・スキン BLADDER SKIN を張るという——ちょうど民笛に竹紙をはりつけたときの音のように——ある種のビリビリと振える、魅力的な音色を生む装置がつけられている。

(註) ブラッター・スキン——魚類の浮袋のこと。木管楽器のバッドPADS——タンポ TAMPON とよばれる——のフェルトを巻くのに使われる。なお、これはソーセージの皮にする豚の腸などで代用される場合が多い。

(註) シロホンの音域は3 $\frac{1}{2}$ ～4オクターブでC $\frac{1}{4}$ 又はFからC $\frac{1}{4}$ くらいまでで、譜面より1オクターブ高い音となり、マリンバの音域は5オクターブにも及びF $\frac{1}{4}$ からF $\frac{1}{4}$ くらいまでの音が出る。

(註) シロホンやマリンバのバー BAR として使われるローズウッド ROSE WOOD などの硬木は、金属と比較した場合、叩いた際の内部的な摩擦 INTERNAL FRICTION が大きく、そのため振動のエネルギーは忽ち熱エネルギーに変って消えてしまい、この理由により短い「乾いた」音色となると説明されている。

(註) シロホンのバーの裏側をアーチ状に削り取るのは、さきに述べたバーシャル(上音)の2・76という数字を3に近づけて、第2倍音に近い音を出して音色も美しくするためである。なお、マリンバの場合は、この削りかたの形状が異なっていて、第2倍音が基音より2オクターブ高い音となるように工夫されているという。この点に両者の楽器の音質的な相違があるのである。

(註) 響鳴パイプは、音量を増大して音質を改良するのに役立つが、その反面、エネルギーを吸収して音が短くなるという結果を生み出す。

●グロッケンシュピール

グロッケンシュピール GLOCKENSPIEL ——別名でオーケストラ・ベル ORCHESTRA BELLS とよばれている。——は、シロホンの木製のバーを金属・バーにしたような楽器である。なお、共鳴パイプはつけられてなく、通常ケースに入れたまま演奏する。演奏の際は、硬いマレット MALL LETS、バーの中心付近、つまり、第2バーシャルのノード NODE の場処を叩く、さらに、バーを支える二個処は第2倍音およびその上のバーシャルのノードは一致しないので、音質は極めて純粋なものとなる。

グロッケンシュピールの音は、そのバーの材質の内部的な

摩擦がシロホンのものより少ないので、その減衰のスピードはややスローである。

その音域はGからC $\frac{1}{4}$ くらいで極めて高い。

(註) グロッケンシュピールの譜面はその実音より2オクターブ低く書かれている。

●ベル・リラ

ベル・リラ BELL LYRE はグロッケンシュピールをマーチング・バンド用に形を変えたものである。形態が大昔のリラ LYRE に似ているのでベル・リラとよばれている。

(註) リラ——ハープと同じく古い歴史をもつ弦楽器で、世界で最古のものはシュメール人の古都であったウルの王の墓から発掘された大型の楽器で、ロンドンとフィラデルフィアとバグダッドに一個づつあるという。古代のギリシャ、ローマおよびエジプトなどの絵画にも多く残されており、現在では、楽譜の表紙のデザインや商標などに多く画かれているが、アフリカの土民の楽器として生き残っているくらいで、現物は見当たらない。

●ビブラホン

グローブの音楽事典によれば、ビブラホン VIBRAPHONE は今世紀になって発明された唯一の楽器であるという。

(註) すべての楽器は19世紀末までの発明し尽され、今世紀に創り出されたものは、電気および電子楽器を除いては、ビブラホンだけなのである。

ビブラホンはシロホンの木製のバーを金属・バーに取り替えたような楽器で、新しくつけ加えた装置はダンパーとモーターで廻転さすパイプの上端のロータリー・ディスク ROTARY DISK だけである。

(註) 金属・バーは、マリンバのバーのように、倍音が正しく出るように、裏面の中央がアーチ状に削られている。

(註) ビブラホンの音は、さきに述べたバーの内部的な摩擦が小さいため、ピアノの中、低音部のように、減衰が極めてゆっくりで尾を引くものとなる。そのため、音を切るために足で操作するフェルトのダンパーがつけられている。

(註) ロータリー・ディスク(廻転する円盤)のため、パイプの上端が開いたり閉じたりすることとなる。そのため、音にビブラートが生じて、ビブラホン独特の魅力のある美しい音色を生み出す。このビブラートは、バイオリンのようなフルークエンシィ・モジュレーション FREQUENCY MODULATION でなく、アンプリチュード・モジュレーション AMPLITUDE MODULATION である。

(註) 音域は、通常、3オクターブでF $\frac{1}{4}$ からF $\frac{1}{4}$ までである。

●チャイム

チャイム CHIMES は、オーケストラ・チャイム ORCHESTRA CHIMES あるいはチューブラー・ベル TUBULAR

— JPC 推薦コーナー — 直輸入マーチング教本

Premier-DRUM TUTOR (カセット付)	¥3,800	Ludwig-W.F.L.Baton Twirling	¥1,500
Premier-Drum Corps Guide	¥1,900	Ludwig-Drum and Bugle Manual	¥1,500
Schmittmusic-Marching Bands through "The Eyes of Texas"	¥1,700	Ludwig-Marching for Marching Bands	¥1,240
Ludwig-The art of Dvumming	¥1,240	Ludwig-N.A.R.D	
Ludwig-W.F.L. Drum Corps Manual	¥ 590	CHAPPELL-Rock Beats for Marching Dvums	¥ 470

R BEL ともよばれているが、NHK の『のど自慢』でよく知られている楽器である。

直径3〜4センチの円筒型のメタル・チューブを垂直にぶら下げて、これを木槌で叩いて音を出す。

そのため、その振動形態は、一般のフリー・バーのものと同じで、非整数倍音を含んだものとなる。

しかし、不思議なことに、この楽器の振動数はおよそ2:3:4 という比率が混ったものとなり、一定のピッチの音として聞き取れると説明されている。

(註) 普通のチャイムの音域は、クロマチックの16音で、C₄からF₅までである。

(註) その音は余韻を残すものなので、足で操作するダンパーがつけられている。

(註) 演奏の際はハンマーでチューブの上端を叩く。

(註) チャイムは、チューブラー・ベルとよばれるように、元来ベル(鐘)の代用品として作り出されたものである。

●チェレスタ

チェレスタ CELESTA は、あまり知られていない楽器であるが、グロッケン・シュピールを、マレットで叩かず、ピアノのアクションに似たものを利用して、鍵盤でハンマーを動かし、演奏する方式の楽器で、外観は小型のアップライト・ピアノに似ている。

なお、共鳴箱 RESONATOR とダンパーがつけられており、サスティーン・ペダルを踏むと、ピアノと同様に、ダンパーが外れるようになっている。

(註) チェレスタはバリーのオーガスト・ムステルAUGUSTE MUSTEL が発明したものである。

(註) 音域は、4オクターブで、C₄からC₈まで。譜面は実音より1オクターブ低く書かれている。

(註) この楽器は、その特殊な純粋な音色のために、近代作曲家たちが、オーケストラのなかに採り上げている。

(註) 現在ではメタル・バーの音をマイクで拾って電氣的に増幅する方式の楽器が作り出されているが、あまり一般的なものではない。

●カリヨン

カリヨン CARILLON とは、あまり聞き馴れない楽器であるが、音階の固定したベル(鐘)を並べて、クラッパー、CLAPPERS ——鐘の舌——で鳴らすものである。

大昔はこのクラッパーを動かすのに紐をつけて手で引張ったが、やがて大型の鍵盤をつけて紐でクラッパーと連結してキイを押えて演奏できるようになった。

しかし、このキイは、大型で重いため、指でなく拳で叩くようにして音を出すものである。

現在では、電氣化されたカリヨンが作られている。これはソイノイド・タイプ SOLENOID TYPE とよばれるモーターの機構でクラッパーを動かすもので、鍵盤はピアノのものと同じで、その重さはピアノやオルガンと変わらないものである。

なお、ベルの音響学的な分析は、極めて難解なものなので、後で詳述することにする。

(註) カリヨンは16〜17世紀頃から北欧のオランダ、ベルギーおよび北フランスなどで使われた楽器で、教会の鐘楼などに設置して、朝夕の時報を知らせるために使われたと伝えられる。やがて、カリヨン専門の音楽も作曲され、専属の奏者も現われたという。

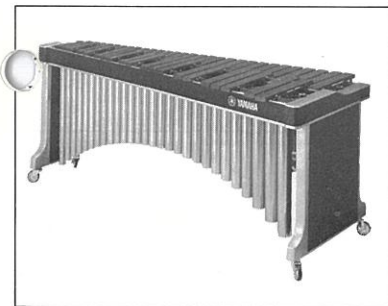
(註) この楽器は北欧に多く見られるものであるが、世界的なものにはニューヨークのリバーサイド・カリヨン RIVERSIDE CALLION で、ベルの数は64個、その最大のものは重さが18 $\frac{1}{2}$ トンもあると聞く。

(註) カリヨンの音楽は、風のない夏の夕暮れなどに、霧がかかった時に聞くのが最も美しいと伝えられているが、世の中が静かであった昔はともかくとして、現在の騒音が渦巻く街では、上野の寛永寺の鐘が聞こえなくなったのと同様、あまり期待できないものである。

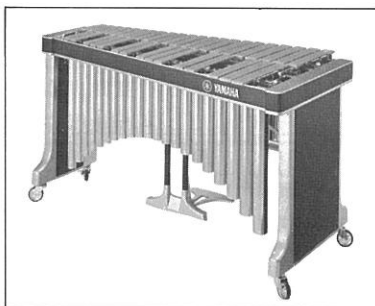
(註) 日本の都市では電子音のカリヨンの音を真似た曲が流されることが多いが、本物のカリヨンの音と較べた場合、音色には優雅さと迫力の点において、雲泥の差がある。

※右の写真はコマキ楽器が輸入し

- 東京芸術大学
 - 札幌交響楽団
 - 東京都交響楽団
- 等に納入したカリヨンです。



マリンバ



ビブラホン



グロッケンシュピール

●お買得品●

ラディックティンパニ 4点(23"、26"、29"、32")
ユニバーサルモデルF・G (再調整品) 新品同様
価格は係員に御相談下さい。



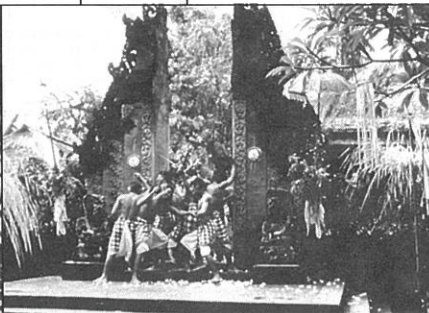
インドネシア民族楽器と 民族音楽を訪ねる旅

ガムラン音楽とバリ島の踊りを鑑賞、そして美しい青い海、星落ちる夜空と、自然美と美しい音楽芸術の旅へあなたも参加しませんか。

期間 8月26日(火)～31日(日)

費用 235,000円 (JPC会員)
(一般 250,000円)

日 程	昭和56年 8月26日	成田発 デンパサール着	12:00 17:00	午前10時 成田空港集合 諸手続の後、定刻空路バリ島のデンパサールへ。 着後ガムラン音楽又はレゴンダンス鑑賞。 (デンパサール泊)
	27日			午前中バロンダンス見学の後、コカール国立舞踏学校訪問 午後自由行動 (タフケチャックダンス鑑賞) 食事なし (デンパサール泊)
	28日	デンパサール発 ジョクジャカルタ着	10:15 11:20	朝 空路ジョクジャカルタへ 着後レストランで食事 午後 アグスティア・インスティテュート(影絵とガムラン音楽の研究)及びガムラン楽器工場見学。 (ジョクジャカルタ泊)
	29日	ジョクジャカルタ発 デンパサール着	16:00 17:05	午前中 アスリ芸術アカデミー訪問。 午後 ポログドゥール寺院とパティック工場見学。 夕方 空路デンパサールへ。 (デンパサール泊)
	30日	デンパサール発	19:00	終日 自由行動(希望者のみ、終日バツール火山とバツール湖 芸術家の村見学) 夕方 空路帰国の途へ。 (機中泊)
	31日	成田着	07:00	朝 成田空港着。 各自入国通関手続の後、空港ロビーにて解散。 バリビーチホテル



申込み〆切 7月15日 お問い合わせ J.P.C.事務局 ☎845-3041

★J.P.C・サマー・キャンプ★

タイトル：リズム、リズムック、リトミック

講師：有賀誠門先生、谷田部敬一、山口多

嘉子各先生他4名

81課題曲と基本的なものを相互的に勉強し、恵まれた環境の中で思いきり体をのびし、打楽器アンサンブルの楽しさを理解するとともに素晴らしいパーカッションライフを楽しみましょう。

日程：8/1、2、3、4(3泊4日)

場所：河口湖

対象：中学生以上、指導者(可)

参加料：1名¥35,000(受講料・食費込)

○スティック、マレット等は、各自持参して下さい。

※毎タゲストとして、オーケストラプレイヤー及びジャズドラマーを迎えて楽しいワンポイントレッスンをを行う予定です。御

期待下さい。

※受講者全員に、サマーキャンプのユニフォームとして81JPC Tシャツを差し上げます。

申込み方法：申込書に必要事項記入の上、参加料を添えてお申込み下さい。

申込み〆切：昭和56年7月15日(但し、定員になりしだい〆切)

問合せ、申込先：〒111 東京都台東区西浅草1-7-1 武藤ビル2F

JPCサマー・キャンプ係

TEL 03-845-3042

郵便振替にて参加料送金の場合

口座番号：東京9-153115

加入者名：(株) コマキ楽器

以上の企画で、パーカッションの和を拡げて行きたく毎年続けていきたいと、思っております。御賛同の程よろしく御申し込み申し上げます。

J.P.C

J.P.C  Tシャツ プレゼント SALE

81' 7.4 (SAT) 10:00~19:30 7.13 (MON)

¥10,000以上お買い上げの方にJ.P.C 81' オリジナル

Tシャツプレゼント

※その他楽しい企画もあります 乞、御期待!

通信販売の方にも品物と一緒に送ります。お申し込み時にサイズをお知らせ下さい。

03-845-3041~2 J.P.C

▶ 自作打楽器コンテスト (作品募集) ◀

- 作品** ①オリジナルの打楽器 (附属品含) 又は既製の打楽器を改良、改造したもの。
 ②①のアイデアのイラスト (使用方法を明記して下さい。)

※いずれも未発表のものに限る。

応募方法: ①の場合は小包の大きさのもの、②の場合は封書にて、JPCコンテスト係に御応募下さい。

切: 昭和56年7月20日必着

※7月20日~31日までJPCに展示、掲載させていただきます。

- ※①JPC事務局賞……………1
- ②アイディア賞……………3
- ③イラスト賞……………3

○各賞の発表は会報No.13に掲載させていただきます。受賞者には賞品の発送をもってかえさせていただきます。

○作品応募者全員に参加賞進呈!

○イラスト作品以外の作品は、コンテスト終了後お返し致します。

◀ JPCだより ▶

- Tシャツデザイン JPC賞!
2398. S・SEO様
- Tシャツデザイン佳作賞!
2604. Y・SHIMAMURA様

以上の方に賞品をお送り致します。多数の御応募ありがとうございました。

- JPCサンバチームメンバー募集! 講師: “オパ” 吉田豊・またろう各氏
官製ハガキに住所・氏名・電話番号を明記の上、サンバチーム係までお送り下さい。尚、メンバー応募の方

方には個々に詳細を御連絡致します。(尚、チーム名も募集)

- 恒例! 墨田川花火大会 8月1日
- 植木市 6月30日~7月1日
- ほおずき市 7月9日~7月10日

夏をいろいろの浅草の風物詩、どうぞお出かけ下さい。

- 次号は「鼓道」諏訪響、小口大八氏を特集致します。御期待下さい。
- 毎月23日はJPC・コマキ楽器とも定休日です。

編集後記

今年も課題曲を特集しました。参考にして頂ければ幸いです。

さて、いよいよ一年ぶり(あたりまえ)の夏! 八月二十七日から三日間「サンバは浅草から……」の掛け声で、浅草カーニバルが開催されます。昨年の前哨戦はいにくドシャ降りでしたが、今年は浅草寺に願をかけていますので、きっとお天気は大丈夫でしょう。例え、雨が降ろうが槍が降ろうが(少しオーバーヒートぎみ)サンバ大会を成功させようと、JPCスタッフ一同仕事もそっちのけで(上司の目を気にしながら……)サンバの練習をしている次第です。なにせ本場リオの優勝チームも来日し、プロ・アマのチーム約三千人がサンバのリズムに乗って踊りまくるのですから、もう今から胸がワクワクします。そして前夜祭には、オパ・南佳孝・等のコンサートもあるとの事、皆さんもJPCチームに入っつて一緒に踊り狂ってゴキゲンな夏にしてみませんか……。そこで一言。早く八月にな……れ!! (親)



昭和56年6月20日 発行

発行所 J・P・C事務局

〒110 東京都台東区西浅草一七七一

(武藤ビル2F)

電話 ○三ー八四五ー三〇四一(代)

郵便番号口座 東京九一ー一五三一ー一五

加入者名 (株)コマキ楽器